

### 第3回 多摩市自治推進委員会 要点記録

日 時：令和2年3月20日（祝） 15：45～17：45

場 所：多摩市役所3階 特別会議室

出席委員：大杉覚委員、小川大介委員、寺田美恵子委員、林久美子委員、大澤俊哉委員、古瀬郁子委員

オブザーバ：中央大学国際経営学部 中村大輔准教授、多摩市若者会議 高野義裕代表

事務局：浦野副市長、藤浪企画政策部長、田島企画課長、秋葉企画調整担当主査、西村主任、雨宮主任

傍聴者：なし

議事次第：配付資料「第3回 多摩市自治推進委員会 議事次第」のとおり

#### 1 開会

委員長 第七期多摩市自治推進委員会の第3回目を開催する。

まず、オブザーバの二人から挨拶をお願いしたい。

オブザーバから自己紹介

委員長 次に、まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。

事務局より、配布資料の確認を行った

委員長 次に、第2回委員会の要点録の原案について、修正はないか。

委員 自分の発言の一部が趣旨と異なる記載になっているため、修正したい。

委員長 他には修正はないようなので、この修正内容を反映したもので確定とする。

#### 2 （仮称）地域委員会構想について

委員長 次に、（仮称）地域委員会構想についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料13、14に基づき説明を行った

事務局 なお、資料13の4ページにある中間支援組織について、モデルエリアでは、本日オブザーバで出席していただいている中央大学国際経営学部の中村ゼミ及び多摩市若者会議に担ってもらおうことを考えている。

委員長 今の内容について、質問や意見等はあるか。

多摩市の地域委員会に対応する総務省の元々の地域運営組織の定義は、地域の人たちが地域の暮らしに必要なサービスを提供する実行の場を指していた。しかし、地方の農山村部など、一定のエリアに関わる人が集う協議の場と実行の場が一体的に組織されていることが多く、また、国が総合戦略でKPI（重要業績評価指標）を掲げていることもあり、今では協議組織を含めて地域運営組織の範囲は拡大して解釈される傾向にある。

寺田委員が代表を務める福祉亭が、まさに地域の暮らしに必要なサービスを提供しており元々の地域運営組織のイメージである。

地域担当職員について、多摩市では、個々の職員が本来業務とは別に地域に入っていくのか、それとも地域担当の部署を置いてその職員が本来業務として地域の担当として取り組むのか。

- 事務局 地域担当職員については、のちほど次第4で資料説明を行うが、多摩市ではどうかたちでやっていくのがいいか、モデル地区での経過を踏まえ、委員会で議論してもらいたいと思っている。
- 委員長 今の段階では、中間支援組織は市が担うのか、それとも市とは独立して活動するのか。  
行政が直接中間支援を行うこともありうる。地域担当の部署を設けて地域を支援することも一種の中間支援ともいえる。  
中間支援という言葉の定義が難しい。行政と地域の間を支援するものが中間、という考え方もできるし、本来は地域が活動していくうえで必要な場所やお金・情報などを仲立ちすることが中間だといえる。それは企業などから支援されることも考えられる。色々なものが中間支援組織たりえる。
- 委員 中間支援組織というと、平成10年頃に特定非営利活動促進法ができたときにも中間支援組織が期待されたが、NPO法人と中間支援組織の連携がうまくいかないと感じてきた。多摩市でも多摩NPOセンターという中間支援組織が平成27年度末で解消してしまった。立ち上げのときの熱気がいつまでも持続しない。中間支援の理念は良いが、持続的な組織のあり方をしっかりと議論しておくべきである。
- 委員長 その多摩市NPOセンターの反省や、全国でめばえている色々な上手くいっている事例を活かして今後詳しく検討していきたい。

### 3 モデルエリアの範囲について

- 委員長 次に、モデルエリアの範囲についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。  
事務局より、資料15に基づき説明を行った
- 委員長 今の内容について、質問や意見等はあるか。
- 副委員長 地域委員会や地域担当職員制にも色々なモデルがあると思うが、まず、多摩市の地域特性を確認したい。  
本日、この会議開催前に行った勉強会「まち歩き」で通った2つのコミュニティエリアには、それぞれコミュニティセンターが1つずつあった。こんなに施設の整った地域はなかなかないと思う。多摩市では、コミュニティセンターを核としてエリア設定を行ったほうがいいと思う。
- 事務局 資料8で示したとおり、すべてのコミュニティエリアにコミュニティセンターがあるわけではない。ただ、本日の「まち歩き」で見たように、コミュニティセンターがないエリアにもそれを補完するような施設が置かれている。モデルエリアを設定するうえでは、そのエリアにコミュニティ活動の拠点となるような施設があることも考慮したい。
- 副委員長 既存組織が既に活動している内容と、これから目指すものとの差は何か。
- 事務局 市民活動が活発な多摩市には、多様な団体があるが、興味分野に分かれ、それぞれ個々に活動している。担い手不足は共通しており、地域が求めることの解決には連携した方が効果的な場面が想定されるなど、小規模な多団体を連絡・支援できる仕組みを「(仮称)地域委員会」として実現していきたい。
- 委員長 参考資料「市内地域運営組織一覧」に記載のとおり、小規模で単機能の活動が多摩市には多くある。多摩市では、エリア単位にこれらが連動して多様な地域課題を共有し、それぞれが得意なことを実行することで「多機能自治」をめざすという考え方だと思う。

- 副委員長 エリアの範囲も大事な事項だが、誰がどのように担うか、も大事である。資料 13 によると、住民の団体に対して中間支援組織が支援を行うようだ。コミュニティセンター運営協議会を基盤にするのか。
- 事務局 コミュニティセンター運営協議会は、施設の維持管理を中心的な活動としている団体もあれば、自分たちで地域活動を主体的に運営しているような団体もある。各団体で温度差があるが、全般的には、ある程度中心的な役割になり得ると期待している。
- 副委員長 新たな組織をつくる場合は、その活動が既存の組織にとって新たな負荷にならないように留意する必要がある。基本的には既存の枠組みに中間支援組織が入るというやり方で進めることができるのではないかと。そうでなければ、出席する会議が増えるだけに思われてしまう。
- 委員長 そういうことは当然考えて行わないといけない。基本的には、地域委員会をつくる時には、新しいものをつくらないほうがいい。例えばモデルAで、このエリア範囲で既に地域委員会のような組織があるなら、そこを中心として地域委員会の考え方も取り入れて活動してもらおうということになる。一方、地域委員会のような組織がないエリアでは、核となる別の団体を見つけ、育てて活用して進めることになる。こういうエリアの実情の違いから、事務局がモデルエリアAとモデルエリアBという示し方をしたものと解釈している。
- 委員 モデルエリアの中間支援を担う予定の中央大学国際経営学部の中村ゼミと多摩市若者会議について、それぞれの団体の構成員のもつ考え方や特性が、活動に反映されるものと思う。以前、多摩市若者会議について話を聞いたが、当初は大学生の参加だったが、段々大学生の参加が減少したと聞いた。代表も本業を持っており、どの程度中間支援業務にコミットできるかが課題になると思う。
- 委員 中間支援組織として担える得意分野があり、それぞれの特性を活かすのが一番いいかたちだと思う。モデルエリアの範囲としてコミュニティエリアや小学校区など、今議論しているかたちから入っていくのがいいのかどうか。
- 委員長 地域側の想いが一番大事である。地域が中間支援組織の持ち味を活かして自分たちのより良いかたちをつくっていけるかどうか。その一方で、多摩市全体で地域委員会を立ち上げていく取り組みを行っている。モデルエリアでの実践でどういう成果が得られていくのかを見届け、その成果のうち他のエリアに活かせる部分を抽出、別のエリアで地域でより良いかたちをつくるのにどう資することができるか、ということはこの場でも考えていかなければならない。それぞれの持ち味を發揮できるようにしていかなければいけない。そのためにも、本日オブザーバとして出席している2人との意見交換が重要である。それぞれの団体の考えや、今後どう活動していくかも伺いたい。
- オブザーバ 多摩市若者会議では、大学生は代替わりするため必ずしも同じメンバーがいるわけではない。その一方で、最近社会人メンバーの活躍が増えてきた。多摩市に思い入れがあり根をはっているメンバーは固定している。メンバー間での交流のなかで、人の入れ替わりの懸念はある程度カバーしてやっていける。
- 委員 若者会議のメンバーは、多摩市民から成っているのか。
- オブザーバ メンバーには、市外のものもいる。
- 委員 多摩市若者会議のメンバーが、元々やりたかったことがあるはずで、それを活かした進め方を考えたい。

オブザーバ 昨年中央大学に赴任いたし、その前任地である福岡の大学では、公立大学であったことから、その社会的役割の1つとして、地域に還元していくための研究活動を担っていた。福岡市の地域担当職員に該当する地域支援課職員との意見交換を通じて明らかになったことは、地域活動を担う方々がおられなくなれば地域がどうなるのかという点であった。この点も踏まえ、地域の活動に参加していない方々に、少しでも「参加してみましよう」と思っただけのきっかけづくりのための活動を行った。なお、研究者のみがワークショップなどを開催しても、地域活動への入りやすさという企画に沿わないと考え、「学生とともに、一緒に手がけてみましよう」という呼びかけのもと、ゼミ学生への協力をお願いした。今回、モデルエリアでは、次のことを実施していく予定である。担当するモデルエリアについて、まず調査を行い、地域が持つ課題を抽出する。また、全世帯へのアンケート調査を通して、地域でどのような意見があるのかを把握する。回答には、メールアドレスやファックス番号といった氏名を記載しない連絡先を記載していただき、年度後半にモデルエリアで開催予定の懇談会への参加を呼びかける。住民の皆様の参加を促すために、こちらでも学生に参画を要請する。地域コミュニティに学生が参画することは、学生の視点からも、今後の人生にとって大事な機会になると考えられる。この一連の取組みを通じて、何かしたいのだけれど、地域活動の内部のことが分からず、手を挙げにくかったという方々にアプローチし、サポートしていく予定である。

すなわち、地域の実情を把握し、それを踏まえ、これまでに地域が行ってきたを活かしていきながら、また、今後地域で実施が望まれることや課題があれば、それらに取り組んでいく。

委員 具体的に懸念していることは、中間支援を担う団体が、解決が得意な課題に取り組んでもらうほうが、成果が出やすく、お互いに楽しくできるのではないかと、ということである。地域は多彩でもあり厄介でもあり、楽しくやりたいと思うことをやってほしい。そうでないと持続しない。

委員長 そのとおりだと思う。中村先生は福岡市での実績を持っているが、地域の実情はそれぞれ異なるので、試行錯誤があると思う。

中間支援組織とは、それ自体も支援を必要とするものであり、最初から完成されたかたちであるとは限らない。また、行政も支援を必要とするものであり、互いに支えあうかたちが必要である。両団体から経過を教えてもらい、委員会から意見することも、両団体から委員会へ検討依頼があってもいい。密にやりとりしていきたい。

また、どこからどのように進めていくのか、モデル地区でやるべきことや、全市でやっていくことなどについて、今後検討していきたい。

事業とモデル地区の考え方を一体化させて考えていきたい。

具体的なモデルエリアは、次回提示されるということでもいいのか。

事務局 現時点でエリアは想定している。資料15のエリアAは中学校区がほぼコミュニティエリアと同一となっている。また、地域福祉推進委員会が設置されており、地域で活動している団体間の横のつながりができているところである。こちらは、多摩市若者会議に中間支援をお願いしたい。このエリアでは地域福祉推進委員会の世話人に、多摩市若者会議のメンバーがいる。モデルエリアBは、そのエリア全体を含む地域福祉推進委員会ができておらず、横のつながりをもたせるような協議体が存在していない。ゼロに近い状態から開始

してもらおうエリアである。こちらは、中央大学中村ゼミに中間支援をお願いしたいと思う。

#### 4 地域担当職員について

委員長 次に、地域担当職員についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。

事務局 地域担当職員制については、本日は先行事例の紹介のみとし、次回以降検討をお願いしたい。委員長が関わった、一般財団法人地方自治研究機構の「地域担当職員制度に関する調査研究」をもとに資料 16 を作成した。

事務局より、資料 16 に基づき説明を行った

委員長 大きな特徴の違いとしては、職員が本来業務とは別に地域を担当するか否かということ、そのことにより地域担当職員数が大きく異なる、またエリアについて、町内会くらいの範囲の地域に関わるのかもっと広く中学校区くらいで関わるのか、職員が個人で地域に関わるのか職員がグループになり地域に関わるのか、管理職が入るのか入らないのか、等である。活動の内容は自治体によっても異なるが、多摩市でどのような内容で活動するのがいいのか。また、多摩市全域で一律のことを行うのか、地域性を考えて各地域で内容を変えるのか、ということも今後考えていく必要がある。

今の内容について、質問は無いようなので、次回以降検討を続ける。

#### 5 その他

委員長 本日会議前の勉強会「まち歩き」の感想などはあるか。

委員 車で通るだけではわからなかった多摩市の素敵なところが、まち歩きで多く発見できた。歩くことはまちを知るために大切なことだと再認識した。すべてペDESTリアンデッキであり、車が入らないので、安全でいい環境だと思った。

委員長 その通りだと思う。最近国の政策でも「ウォークブル」ということが言われている。多摩市を歩いてみると、良いところも課題もよく分かった。

事務局 次回は、令和 2 年 5 月 14 日(木)午後 6 時 30 分から、多摩市役所特別会議室で行う。次回は、モデルエリアのエリア設定及び地域担当職員について、議論をお願いしたい。

次回以降、できれば委員会開催前に、1 時間程度勉強会を行いたいと思う。また、委員会開催前に限らず、委員が参加しやすい時間を調整することも検討する。委員長からの課題提供を行い委員やオブザーバとの共有や、委員からの課題提供もしてもらいたい。会議開催より早い時間の開催となるので、都合がつく範囲でお願いしたい。

委員長 会議の時間内のみで説明しきれないことが多く、また会議の内容も専門的なことが含まれ、市民委員の方からすると理解しがたいことが多い。以前別の委員会で座長を務めた際も、勉強会を行うことを重視していた。勉強会を委員で行うことはもちろん、広く知ってもらうことが大事と考えているので、一般の職員や一般市民も含めて、勉強の場を設けることができればいいと思っている。

次回の勉強会では、テーマとして「地域カルテ」を取り上げたい。自分から話題を提供してもらいたい。また、委員や中村先生、若者会議からもぜひ話題提供をお願いしたい。

#### 5 閉会

委員長 これで第 3 回委員会を閉会する。